

# 知ってみよう! 学べる仙台

## 世界に広げよう! 仙台のビルド・バック・ベター

～海外からの防災関連研修を受け入れています～

2015年3月の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」にある重要な考え方の一つに、「ビルド・バック・ベター (Build Back Better) 」(より良い復興) があります。これは、「災害発生後の復興段階において、災害発生前と同じ状態に戻すのではなく、次の発生に備えて、より災害に対して強い状態にする」という考え方です。

「仙台防災枠組」採択の地「Sendai」に「より良い復興」の取り組みを学ぼうと、平成28年度は数十か国、100名を超える海外の人々が視察・研修で仙台市を訪れています。研修のテーマは復興、防災、女性のリーダーシップ、市民との連携など多岐に渡り、行政だけでなく、さまざまな立場の市民が講師となり「市民主体による地域防災」を発信しています。

研修生の多くは日本と同じように自然災害の多い国からやってきます。国によっては法整備や計画の策定が十分に進んでおらず、地域の災害対応能力も脆弱で、本市の震災の経験や防災の取り組みが有益な参考事例となります。仙台市では今後もこうした海外からの研修を継続して受け入れ、世界の防災・減災に貢献していきます。



▲総合防災行政研修での旧荒浜小学校視察。大洋州と中南米の11か国が参加 (JICA主催、2016年8月)



▲アフガニスタン防災関係者招聘事業での質疑応答 (JCC-DRR主催、2016年11月)



▲ジェンダーと多様性からの災害リスク削減研修でのワークショップ。アジアと南米の6か国が参加 (JICA主催、2016年12月)

色々な国の  
人たちがいるよ!



学びに  
来ているんだね。

### 仙台防災未来 フォーラム2017 特集号

※仙台防災未来フォーラム2017の  
概要は中面に記載しております。

### 防災環境都市・仙台ニューズレター



「伝える」「繋げる」「備える」を応援する  
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちづくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「伝える」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する「ひと」に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2017 No.3

テーマ

多様な人々による  
防災・減災

開発グループ  
左から佐藤 亜美さん / 熊耳 優佳里さん / 佐々木 沙菜さん  
当日欠席 大畑 結さん

### 表紙インタビュー 伝える仙台

仙台白百合学園高等学校2年 SGH  
外国人向け防災・減災パンフレット  
「Look Before You Leap」開発グループ

## お知らせ

### 「ともに考える防災の未来～私たちの仙台防災枠組」講座シリーズ

#### ●第3回「国際・民間での協力とパートナーシップ」を開催しました

12月10日に開催した第3回講座では、東北大学災害科学国際研究所の小野裕一教授とマリ・エリザベス・アン助教より、国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組における「グローバルターゲット (世界の減災目標)」と地域での防災・減災活動との関係や、地元から国際協力を行っていくことの重要性についての講義に続いて、「地域でできる防災・減災の取り組みを考えよう!」をテーマとしたグループディスカッションが行われました。最後に、今村所長より第1回から第3回全講座受講者へ修了証が手渡され、「これまで学んだことを、これからの地域防災にぜひ活用してください」との呼びかけがありました。



▲「グローバルターゲット」について説明する小野教授

#### ●特別講座「大人も子どもも ともに学ぼう! じぶん防災行動」を開催しました

1月21日に行われた特別講座のパート1では、「結」プロジェクト※で出前授業を受けてきた小学校の子ども達から、これまで行ってきた減災への取り組みについて報告があり、パート2では、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長が制作した「じぶん防災プロジェクト」の小冊子を使って、津波発生時に一人ひとりがどう行動すべきかを考えるワークショップが行われました。今村所長は、「今回の講座のように、子どもから大人まで地域の防災を支えるステークホルダーが自分たちの取り組みを共有し、継承していくことが重要です」と話しました。

※東日本大震災の経験を元に考案された減災ポケット「結」(ハンカチ)を活用し、日本や世界へ減災意識を広め、次の災害の被害を少しでも減らすことを目標とした東北大学と仙台放送によるプロジェクト。

#### ●ともに考える防災・減災の未来～「私たちの仙台防災枠組講座」、「結」プロジェクト合同発表会を開催します

>>> テーマセッション 10:15-12:00

3月12日の仙台防災未来フォーラム2017で、これまでの講座シリーズの報告会を開催します。報告会では、受講生が講座での気づきや今後の地域の防災・減災の取り組みへの仙台防災枠組の活用などについて発表します。また、後半は、「結」プロジェクトの参加校3校が、防災・減災活動の報告を行います。

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室  
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1  
TEL: 022-214-8098  
FAX: 022-214-8497  
E-mail: mac001605@city.sendai.jp

編集 株式会社仙台紙工印刷  
発行日 2017年2月

▶「える」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。

<http://sendai-resilience.jp>

仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

▶次号は4月発行予定です。

タブレットでも!  
スマホでも!



この印刷物は「再生紙」を使用しています。

## 仙台に住む外国人とともに災害に備える。

>>> 出展者ピックアップ! >>> ミニプレゼンテーション 12:20-14:20 (うち10分)

私たちは「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」の総合学習で、1年生の4月から課題解決型の探求活動を続けています。それぞれ小学校5年生の時に、南相馬市、亶理町 (浜吉田)、仙台市で震災を体験しました。災害時における弱者とされる人々への支援について調べるうち、15ヵ国以上の外国人の方々が犠牲となっていること、その支援体制の多くが改善されていないことを知りました。台湾への研修旅行では、台中にある東海大学 (Tunghai University) の先生方や学生の皆さんとのディスカッションのために日本語版と英語版の資料を作成したほか、現地の災害時パンフレットを読み解きました。その中で、「言葉の問題」にあると考えるようになり、改善のために私たちの視点で考え、英語版と日本語版の「外国人向けの防災・減災パンフレット」の開発に取り組むことになりました。

パンフレットのタイトルは、「転ばぬ先の杖」の英訳で、「Look Before You Leap」です。「災害で飛び上がる前に見てください」という意味を込めました。作成に当たり、仙台に住む外国人の方々へのアンケート調査や、外国人向けの防災訓練に参加したほか、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長や佐々木宏之助教などのたくさんの方々にアドバイスをいただき、外国人の方々に必要な内容を考えました。例えば、地震と津波への備え方、安全な避難の仕方、避難所での過ごし方、災害伝言ダイヤルについて、やさしい日本語や英会話、聖書の言葉など... たくさんの内容を盛り込んでいます。ひとつの形になりましたが、これがゴールではなく、多くの方に見ていただきながら改良を加え、皆さんに役立ててもらいたいと考えています。「仙台防災未来フォーラム2017」でも、この活動について発表しますので、ぜひ来場ください!



▲仙台市主催イベントでの特別発表の様子



▲制作した外国人向け防災・減災パンフレット  
左: 日本語版 右: 海外版

### 仙台白百合学園高等学校のスーパーグローバルハイスクール (SGH) としての取り組み

平成27年4月より、文部科学省からSGHの指定を受け、「社会から忘れられがちな人々に共感し、他者に尽くす奉仕の心を持って、問題の解決のために主体的に行動できる人」(グローバルサントリーダー)の育成を目指した課題解決型探求活動の実践を開始しました。教育・医療福祉・食・環境・企業の5つのテーマから生徒たちが自ら課題を設定し、現在もさまざまなプロジェクトが動いています。3月には「第1回東北地区SGH課題研究発表フォーラム in 杜の都」や「SGH甲子園の本選」にも出場します。仙台白百合学園高等学校 TEL 022-777-5777 ホームページ <http://www.sendaishirayuri.net/>



# 仙台防災 未来フォーラム2017

— 経験を伝える・共有する・継承する —

## 2017.3.12 日

時間 10:00~18:00 会場 仙台国際センター展示棟  
主催 仙台市

震災から6年を迎える今、震災の経験と教訓を地域や世代を超えて、どのように「伝える」かが、改めて問われています。このフォーラムでは、震災経験の伝承、地域防災の次代の担い手づくり、人々の多様性と防災などのさまざまなテーマから、「伝える」ことの大切さや今後の課題について理解を深め、経験や教訓を世界へ、そして将来へどのように受け継いでいけばよいかを考えます。

### 開催概要

#### >>> シンポジウム・セミナー

・テーマセッション(複数セッション同時開催)  
[午前・午後計6行事程度、各120分程度]

多様な主体(マルチステークホルダー)による防災・減災の取り組みや、課題、方向性、将来像等を報告します。

・自治体・政府系機関(仙台市/国際協力機構(JICA))

・企業・市民団体等  
(河北新報社/みやぎ防災・減災円卓会議)

・研究機関等(東北大学災害科学国際研究所/  
東北福祉大学、障害者の減災を実現するイニシアティブ研究会)

・クロージング [午後 90分程度]

フォーラムのまとめとして、それぞれのテーマセッションの結果報告をもとに、「伝える」ことの大切さや今後の課題などについて、参加者で共有します。

>>> 最新情報はWEBで発信中! <http://sendai-resilience.jp/mirai-forum2017/>

#### >>> ミニプレゼンテーション [10団体程度]

展示出展団体や防災・関連団体によるプレゼンテーションやミニトークを行います。

#### >>> ブース展示 [50団体程度]

自治体・政府系団体、地域団体・NPO、研究機関等による展示、被災地の女性たちによる手仕事品の販売を行います。

#### 仙台防災未来フォーラム2017 運営事務局

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1  
仙台第一生命タワービルディング19階  
(横コングレ東北支社内)

TEL 022-217-7851  
FAX 022-723-3210

いろんな人達の  
発表があるんだね。

行ってみよう!



#### >>> 出展者ピックアップ!

### 災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム

>>> 展示ブース

高知県立大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻  
災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム

西川 愛海 さん

#### 災害看護における防災・減災を世界へ。

本プログラムは、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学による災害看護の課題解決に取り組む学際的・国際的リーダーを養成するための共同大学院です。東日本大震災はじめ、茨城県常総市の豪雨災害や熊本地震の被災地での健康支援活動、海外でのフィールド調査などを行い、実践での課題について研究しています。

高知県立大学では南海地震に備え、地域住民、行政、医療機関と連携した減災対策を推進しています。効率的な災害支援を実現する高知モデルの構築を目指し、災害時要配慮者になりうる方々への減災教育や訓練、県の防災啓発冊子及び市町村での避難所運営マニュアルの作成、病院におけるBCP(災害時の事業継続計画書)作成などにも関わっています。フォーラムでは本プログラムの取り組みや活動から見えた課題と今後の対策について、パネルなどの展示を行います。



▲インドネシア住民の減災に対する意識調査

#### DNGL管理センター

TEL 088-847-8630  
ホームページ <http://www.dnjl.jp/japanese/>

### わしん倶楽部

>>> ミニプレゼンテーション 12:20-14:20 (うち10分)、展示ブース

わしん倶楽部 代表  
減災コーディネーター・防災士

田中 勢子 さん

#### 楽しく学び、気づく、防災・減災教室。

わしん倶楽部は、体操やゲームを通して、楽しみながら防災・減災の知識や心構えを学んでもらいたいと、2009年1月に設立した市民団体です。大震災以降も、各地の市民センターや町内会、学校、企業で講座や教室を開催し、第3回国連防災世界会議をはじめ、数々の防災イベントにも参加してきました。

「歩一歩(ほいっば)たいそう」は、地震、津波、台風などの自然災害時に自分の身を守る初期動作や心得を、歌と一緒に覚える防災健康体操です。「クロスロード」は、災害時の難しい状況判断に「YES」「NO」で答えながら、参加者同士が意見交換するゲームで、みちのく版・宮城野編の設問には震災当時の避難所での体験や教訓なども盛り込みました。ほかにも災害を乗り切る知恵を学ぶ「ぼうさいカルテット(みちのく版)」や、子ども達が遊びながら自分を守る行動を身につける「ぼうさいダック」などのカードゲームも紹介します。防災・減災ゲームの楽しさは、やってみればわかります。皆さんのご参加をお待ちしています。



▲わしん倶楽部 防災教室「ぼうさい駅伝」

#### わしん倶楽部

TEL 022-256-8829  
E-mail [sendai.seibou@docomo.ne.jp](mailto:sendai.seibou@docomo.ne.jp)



テーマ・インタビュー  
繋げる仙台

>>> 仙台防災未来フォーラム2017・テーマセッション

## インクルーシブ防災をめざした地域づくり ～障害者の防災・減災をともに考える～

東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、障害者の視点を取り入れたインクルーシブ防災や、誰もが安心して暮らせる街づくりについて、専門的な調査・研究を通してさまざまな提言や活動を行う東北福祉大学の阿部一彦教授、阿部利江助教にお話を伺いました。

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授  
障害者の減災を実現するイニシアティブ研究会 代表

### 阿部 一彦 さん(右)

仙台市障害者施策推進協議会会長ほか、(福)仙台市障害者福祉協会会長、(福)日本身体障害者団体連合会会長などを務め、障害者の防災対策に様々な提言を行う。

>>> 出展者ピックアップ! >>> テーマセッション 10:00-12:00、展示ブース

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 助教  
障害者の減災を実現するイニシアティブ研究会 研究メンバー

### 阿部 利江 さん(左)

震災時における障害者や家族、支援者の体験に基づき、これからの地域生活支援や解決策を研究。学生とともに避難所や仮設住宅などでのボランティア活動を実践。

#### 災害時にあらゆる人の命を支えるために

先生のこれまでの取り組みを教えてください。

阿部(一) 2009年から仙台市障害者施策推進協議会会長として障害者災害対策ワークショップや災害時障害者専門ボランティアの養成・登録事業などに関わってきました。震災後は、その際の課題も踏まえて、2013年には大学で「障害者の減災を実現するイニシアティブ研究会」を立ち上げ、震災後の障害当事者やその家族の体験調査を行ってきました。インクルーシブ防災とは、障害者を含むあらゆる人の命を支えようという防災の考え方です。そして、2015年の国連防災世界会議のパブリックフォーラムでは、「障害者の視点からのコミュニティ全体で備えるまちづくりへの提言」を開催しました。

#### 震災時の支援活動から見えてきたこと

震災時の障害者支援はどのようなものでしたか。

阿部(一) 震災時、仙台市障害者福祉協会では、加入団体の会員・個人会員や協会のサービス利用者の安否確認はじめ、福祉避難所の運営、日本障害者フォーラム(JDF)みやぎ支援センターの開設、ボランティアの受け入れなど、行政や関係団体とのネットワークをつなぎながら支援活動を行うことができました。東北福祉大学としては、多数の学生が被災地でのボランティア活動に取り組みました。

調査や支援活動から見えてきた課題はありますか。

阿部(一) 震災時は、何らかの障害者団体に所属、あるいは福祉サービスを利用している障害者には支援の手が行き届きましたが、そうではない障害者は孤立したケースもあり、日頃からの住民同士のつながりや、お互いに支え合う地域づくりが重要なことを実感しました。

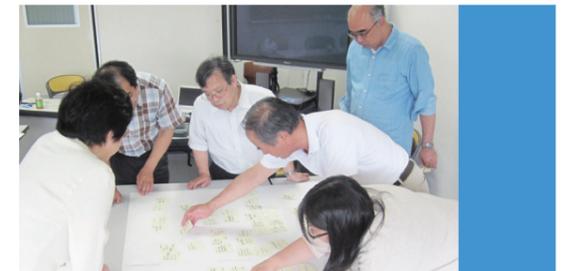
阿部(利) 指定避難所などでは、障害に対する周囲からの偏見や理解不足により不便な生活を強いられた方がいました。地域における障害者への理解促進や支援方法の周知が必要なものも見えてきました。

#### 防災にもっと障害者への理解と配慮を

テーマセッションを通して伝えたいことは。

阿部(一) インクルーシブ防災や、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するために、災害時の支援や防災対策に障害者への配慮を取り入れ、地域における障害者への理解を深める場にしたいです。また、今回のセッションを通じて、皆様と議論しながら、災害時要援護者情報登録制度や障害者への差別をなくす条例なども含めた仙台市の先進的な取り組みや成果についても広く発信したいと考えています。国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」で、ステークホルダー(防災関係者)に障害者が加えられたことは、大きな成果。このような機会に、障害者と防災のことをより多くの方に考えてほしいと思っています。

阿部(利) セッションでは、本学の研究プロジェクト成果として、震災が障害児・者とその家族にもたらした生活課題もご説明します。「支援」と「受援」の関係性についても、皆さんにお伝えしたいですね。



▲研究会でのワークショップの様子

#### 障害者の減災を実現するイニシアティブ研究会

文部科学省の支援事業に採択された「東日本大震災を契機とする地域の健康福祉システム再構築」プロジェクトの研究グループのひとつ。東日本大震災が障害児・者、高齢障害者とその家族にもたらした生活課題と今後の復興への取り組みをテーマに、震災を体験した障害者の困りごとについてヒアリンググループワーク、アンケート調査を重ね、施策へのさまざまな提言及び、情報発信や講演活動を行う。  
東北福祉大学 国見キャンパス TEL 022-233-3311(代表) ホームページ <http://www.tfu.ac.jp/>